贈呈式24日夕

1

ムスホ

多様な学び

の機会提供

同センターは、高校に通

実感があるという。

学習面でも伸びていく

しながら35年以上、

、学級通

発言しやす

ールも考案

中学で国語の指導に尽力

と

引っ込み思案な生徒も

で、気持ちを分かち合える」

さん

「みんなで話し合うこと

「人は変わりうる存在で

て受け入れ、最大3年間に す。生徒を「休学者」とし 就学につなげる役割を果た うことに悩んでいる生徒を 介する。贈呈式は24日午後6時半から、

那覇市久茂地のタイムスホールで開

く。関係者のほか一般参加も受け付け

問い合わせは沖縄タイムス社事業局

がいなくなる」と体験者頼

10年もすれば証言できる人

電話098(860)3588

まう」。10年前から「あと

や悲しみの継承になってし

あり、

一緒に出向していた

県出身の社会科教師に沖縄

戦の知識では及ばない。

県立総合教育センター

とが転機となった。

児童・生徒向けの講話も

和祈念資料館に出向したこ

ま伝えてしまうと、憎しみ

たことを次の世代にそのま

戦争体験者に伝えられ

和学習で語

n

部育成

の観光コースでは、元なご

は全員が

県外からの留学

・島活性化

交流しながら、島を盛り上生。「子どもたちが地域と

活動へ参加してもらったり

践に奔走する。出発点は沖「対話型」の平和教育の実探究的な学習を重視した

かを考えた。

戦争体験者が年々少なく

ら、クイズや質問を投げかなっている中、講話主体か

けて生徒自ら考えさせる形

世代に沖縄戦の教訓を伝え

若い世代がより若い 昨年赴任した大宮中

る「ピースフルメッセンジ

を追求し、従来の「やらさ

住民と一緒にラジオ体操

住民にも学級

教科を横断して完成さ

対話型」

の平和教育実践

下の小学生に伝えたり、交は、生徒が学んだことを年

流のある横浜市の生徒を平

内したりする活動に取り組 和祈念公園(糸満市)で案 現場復帰した名護商工高

とにした。

イムス教育賞 正賞1 学校 奨励賞4氏紹介 氏•1

子の成長寄り添う

3月21日金曜日



2025年(令和7年)

で生徒をサポートする教員ら =那覇市・泊高(提供)



いる。県内では同校だけで、

それぞれで、 なければならず、

制課程の午前部を設置し

ある」。 れている。 生徒一人一人に応じた学び 記されたのぼり旗が掲げら 満市移転に伴い、 の機会を提供している。 まざまな機関と連携を図 ット」として福祉などのさ の玄関には、心強い言葉が 「学びのセーフティー 多種多様な事情がある 泊高校(那覇市) 沖縄水産高の糸 1 9 7 ている。 援」に近い。生徒から信頼の「指導」というより「支 で約200-との連携を図る。 か、外部の行政や福祉機関 転学手続きや面接練習のほ わたって進路相談に乗り、

同校教員にとって、生徒

人をサポー

年に県唯一の定時制・通信 制の独立校として現在地 90年には定時 もなっているという。 に応じた学習が提供でき を得てこそ、個別のニーズ つ、職場として誇れる場に とってもやりがいを感じつ 成長を実感し、教員自身に る。親身に寄り添うことで

=6日、那覇市・松島中発行した学級通信を手に学級づくりを振り返

る濱川尚子さん

る」と語る。 多様だが、 校生活を過ごしてほしいと が多い。楽しく充実した学に取り組んでいる生徒たち の思いで学校運営をしてい 前里哲寿校長は「とても 一生懸命に物事 2学校・団体)の応募がありま タイムス教育賞は12件(10個人)

第62回(2024年度)沖縄

評

与那原良彦

選考委員長

だ内容を地域の小中学校や公民

まざまな問題を抱え、

厳しい境

いじめや不登校経験者などさ

の先生が受賞しました。

今年は戦後80年です。沖縄戦

に何ができるか」を考え、学ん

館などで出前平和講話として発

和教育多数

が認められ、正賞に選ばれまし

ーネット」の役割と存在

行を重ねた学級づくり、地域と

育、長年にわたる学級通信の発

連携した図書館教育などで4人

বু

最大限に活用した「学びのセー

支援センター」を設置して

通信制に「生徒就学

時制と、週1回のスク・

午前と夜間の2部ある定

ング(登校)がある通信制に

とのつながりは今後も大切 にしていきたい」と話り その上で「生徒の悩みも 個別に対応 学校外部 業高校教頭の切刀弘之先生で

正賞のお一人は、

県立宮古工

追体験のフィー

ルドワークや

戦争体験者からの証言聞き取り

程(午前部・夜間部)や通信制 ニーズに対し、普通科定時制課

生徒就学支援センターを

動や中学生が発信する平和教

いという非戦の思いを継ぐだけ

各取り組みは戦争を起こさな

離島での特別活

卒業に導きました。

した生徒を全職員で支援し、

ない沖縄戦の記憶の継承に尽力 をさらに深くし、忘れてはなら

しています

幼児を抱えながら12年間在

生徒自ら「平和のため

れま

奨励賞4件の受賞が決定

厳正な審査の結果、

習を通

した自己肯定感」をテ

た平和教育が高く評価さ

事例もありました。

県立泊高校は多様化する教育

発信する「次世代の語り部・真

沖縄戦を主体的に学び、

表しました。 定時制1年生が、

の沖縄観光人育成」や「平和学

系2世の体験を基にした朗読劇

し、学習意欲が向上した

でいます。

定時制課程夜間部で

徒らが自ら発信することで学び り組む実践が目立ちました。生 沖縄戦に出兵した米ハワイの日

せる」という全職員一致した強

徒が主体になった平和教育に取

今回、各地の教育現場で生

聞く機会が少なくなっていま の体験者が少なくなり、証言を

い使命感で教育活動に取り組ん

学した生徒全員を進級・卒業さ 遇にある生徒らに寄り添い、「入

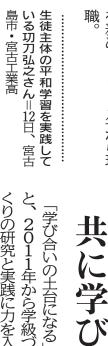
県平和祈念資料館での経験

県内の教育分野で優れた研究や実践 を続け、顕著な成果を挙げている個人 • 団体を顕彰する第62回沖縄タイムス 教育賞に、教育賞正賞1氏・1学校、 教育奨励賞4氏の計5氏・1学校が選 ばれた。受賞者の活動や抱負などを紹



90年大東文化大卒。 禄高に採用。県平和祈念資 67年生まれ。東京都出身。 くぬぎ・ひろゆき

を務め、2024年から現 料館主査などを経て名護商 北谷高、宮古総合実 八重山商工高で教頭



宮古

と

2011年から学級づ

れてきた。学級づくりがう まくいくと、互いに学び合

も掲載してきた。的に拾い、行事の

くりの研究と実践に力を入

ころなど、 事の感想や

生徒の声を積極 クラスの良いと

行事の価値付け

鳩間島(提供)特別活動に工夫を凝らしている小橋川利奈さん 竹富町

名護市・大宮中 | 名護市・大宮中

91年小 クとし

ていくつもりだ。い」。現場にいる て積極的に伝えていきた 肯定感向上も目指して タケジロウさんが沖縄戦で を重ねてきた。生徒の自己 ど、行く先々の学校で実践 読劇にして披露させるな 投降を呼びかけた体験を朗 た日系2世の元米兵ヒガ・ は、資料館出向時に出会っ 小中学校への出前講座を実 らん学徒隊への聞き取りと 「僕のライフワー 八重山商工高定時制で 現場にいる限り続け (宮古支局・當山学) る。特別活動は「どうよ子した学びに力を入れてい域との交流や、教科を横断 ŧ 特別活動に力を入れ、

の平和学習で次代の語り部

換期を迎える中、生徒主体

続けてきた。戦後80年の転

正賞

刀弘之さん(57)

みの平和教育の限界を訴え

の育成に取り組んでいる。

見方や意見もあるんだ』

ていうことを受け入れられ

嫌いだから意見は聞かな

の経験を生かし「『あの子 勤務時代に培った教育相談

い』じゃなく、『こういう

る。

語の教師になった。 201

じゃあ平和のために何がで ないと、戦争が起きるよね。

んど知らないまま沖縄で英

沖縄戦をほと



小学部では観光客向けの交流しながら、島を盛り上 地図「鳩マップ」を作成し 文章は国語の授業で考 時間に島を歩い ・を確認するな

小橋川利奈 3

奨励賞

奨励賞

ひが・ともき

大宮中で、2024年から 縄国際大学卒業。初任校も 年生まれ。名護市出身。

再び同校で勤務している。

望んでいる。

(社会部・新垣亮)

争を学び、「世界の平和」

まで思いをはせてほし

考える。戦後80年を迎えた 尊さを知ること」にあると

生徒たちには地域の戦

して交流を深めることで、

「学校の良さを生かした

言葉に、どうしたら「自分 傍観者のような生徒たちの

れる平和学習」からの脱却

として捉えてもらえる

前任校の東村立東中で

3

を広げている。

ー」を企画し、

平和学習の意義は「命の

きだ。「かわいそうな話」 縄戦を学んだ生徒のつぶや

「(写真が)怖い」。どこか

竹富町立鳩間小中学校小学部教諭

びを子どもや同僚と共有れからも学び続け、その学 カリキュラム化した。「こ るように変化したという。 考え、同校での取り組みを 子どもたちは日常的に住民 かしていきたい」 教育活動が、誰でも継続的 とコミュニケーションを取 にできる仕組みが必要」と

教育や学校づくりに生

日に生徒がサプライズを仕 88年生まれ。沖縄市出身。 022年度、うるま市教育 岐阜女子大大学院卒業。2 実践グランプリ推薦部門最 した。クラスメートの誕生 こばしがわ・りな (社会部・屋冝菜々子)

合う当

字級(

信を発行

続けてきた。行

那覇市立松島中学校教諭

沖縄国際大卒。日本教育力 ウンセラー協会沖縄支部所 63年生まれ。那覇市出身。 はまかわ・なおこ 公認心理師、

奨励賞

れてきた。 仲間に感謝する。 る。 る仕掛けをつくると、「子 と振り返る。 掛ける企画も「楽しかった」 どもたちは響き合ってくれ てもらった」。 教員向けの研修講師も務 生徒間の関係性が良くな 自分も一緒に成長させ 生徒や研究

きた。言葉との出合いが読み聞かせなどに力を入れて

スを回り、

解力やコミュニケーション

したりして、

として長年、平和教育や読

3年に具志頭村

(現八重瀬 学校司書

職員となり、

を付けてほしい」。 199

おうと工夫を凝らす。

聞かせや、

図書委員による

戦後も大

で企画展を開くほか、 平和教育。 6月に校舎1

読み

ら、本に関心を持ってもら

生きる力

書通

生きる力育

てる

から好評という。

特に力を入れているのが

者による読み聞かせも生徒

あったと自分の経験を伝を迎える。「面白いことが 援していきたい (社会部・屋冝菜々子) 学校教育を外側から応 後進の育成にも力を入 3月で定年退職

八重瀬町·具志頭中



奨励賞

えたり、クイズ形式で本を して4月に全学年・全クラ 現在勤務する具志頭中で オリエンテーションと 本の探し方を教 来館につ

八重瀬町立具志頭中学校司書 定している。 詩の朗読放送も行う。 戦後の混乱に関する本も選 変だと知ってほしい」と、 時中だけでなく、

就学前の呆隻が高つ」。 世代に本を手に取るきっかを講演で説くなど、幅広い せの重要さや絵本の選び方 けを提供している。 (社会部・屋冝菜々子)

963

まざ・たかの

瀬町)出身。83年沖縄国際大

月末で定年退職を迎える。 図書館協議会事務局長。

3

学短期大学部卒業。県学校 年生まれ。具志頭村(現八重

ではなく、他者との違いを認め、

尊重する学びにつながっていま 受賞を逃した中にも優れた指

多くありました。実践の羅列だ導・活動がうかがえる実践が数 けではなく、子どもに与えた影 響や成長の過程などを具体的に

めて応募をしていただきたいで 示すよう

資料の

充実を

図り、 (沖縄タイムス社文化事業本部

紙面編集•友利仁